THE HONG KONG INTERNATIONAL RACES 2001

〈詳報〉香港国際競走2001

日本馬、GI3勝の快挙を達成！



2001年12月16日は、日本競馬にとって記念すべき1日となった。香港のシャティン競馬場で行われた香港国際競走（GⅠ3レース、GⅡ1レース）に日本馬、計6頭が出走。GⅡのスプリントこそ惨敗を喫したものの、ヴァーズをステイゴールドが、マイルをエイシンプレストンが、カップをアグネスデジタルがそれぞれ制覇。GⅠ3レースをすべて日本馬がさらってしまうという快挙を成し遂げたのである。日本のファンを狂喜させ、海外の関係者やメディアを驚嘆させた歴史的な1日の模様を改めて詳報する。

編集部＝文
text by Editorial Staff

加賀利貴＝写真
photograph by Toshitaka Kaga





出走6頭中、GⅠ馬は4頭。日本調教馬の果敢な挑戦。

2001年、日本調教馬の海外遠征の幕開けは3月のドバイ。ここでの目覚しい活躍は世界に大きな衝撃を与えた。ドバイシーマクラシック（GⅡ）に出走したステイゴールドは、前年のワールドチャンピオン、ファンタスティックライトを破って勝利を収め、メーンのドバイワールドカップ（GⅠ）に参戦したトウザヴィクトリーは果敢に先行し、アメリカの強豪キャプテンスティーヴにこそ差されたものの、見事2着に入って見せたのである。このサンデーサイレンス産駒、それもGⅠタイトルさえ持たない2頭の驚異的なパフォーマンスで、日本調教馬の実力が世界レベルに達していることを疑うものはいなくなったと言っていいだろう。

そして迎えた12月16日の香港国際競走。フジヤマケンザン、ミッドナイトベットの優勝などで日本でもおなじみとなったこの催しに、日本は6頭の強豪を送り込んだ。そのうち4頭、アグネスデジタル、ゼンノエルシド、エイシンプレストン、ダイタクヤマトはGⅠ馬であり、他の2頭、ステイゴールドとメジロダーリングも重賞ウイナーという豪華さ。これで好結果を期待するなという方が無理というものだろう。

そうした事情を反映し、シャティン競馬場のプレスルームは日本の報道陣がひしめき合い、またスタンドでは地元の観客の広東語に混じって、日本からわざわざ訪れたファンの熱気を帯びた会話が聞こえていた。

当日の番組は全9レース。ダイタクヤマトとメジロダーリングが出走する第3レースの香港スプリント（後述）で国際競走は幕を開けた。ここでは残念ながら日本調教馬2頭は大敗を喫してしまうのだが、1レースをはさんだ第5レースの香港ヴァーズでステイゴールドが驚異的なパフォーマンスを展開し、地元ファンの、また世界各地から駆け付けた関係者の度肝を抜いたのだった。

絶望的な位置からの差し切りに、日本人ファンは熱狂の渦へ。

香港ヴァーズに出走するステイゴールドは、これが現役最終戦。このレースのあとには種牡馬入りすることが決まっている。念願のGIタイトルをゲットする最後のチャンスであ



ゴール前50㍍。ステイゴールドが外から猛烈な脚で追い込む

る。シャティン競馬場のスタンドにいた日本人の多くは、この愛すべきベテランランナーのラストランを見届けにやってきた熱心なファンだった。

ステイゴールドの単勝オッズは2・0倍で、ダントツの1番人気。これはやはり3月のドバイシーマクラシックで、2000年の香港カップの優勝馬でもあるファンタスティックライトを破った実績が大きく評価されてのものだ。ちなみに、香港で売り出された2001年のジャパンCの馬券でもステイゴールドは1番人気に支持されていたという（2番人気はトゥザヴィクトリー）。

パドックから本馬場へ進むステイゴールドの毛艶は黒く光彩を放っており、体調のよさは歴然としていた。そして、ぎりぎりまで絞りこまれたのであろうその馬体は、シャープな迫力を醸し出していた。

スタートは現地時間の午後3時10分。先手をとったのはデットーリ騎乗の4番人気、ゴドルフィンのエクラールで、絶妙なペース配分で後続を引っ張る。ステイゴールドはゆったりとゲートを出て、後方から4～5番手を進む。折り合いに専念して末脚勝負に賭けようとする武豊騎手の意図が透けて見えるようなレース運びだ。

逃げるエクラールとデットーリ騎手のコンビネーションは抜群で、3コーナーあたりからややペースを上げると、後続をスーッと引き離しにかかる。不意打ちを受けた格好になった2番手以下も追い上げにかかるが、その差は大きく開いていた。4コーナーを回ったとき、エクラールと2番手集団の差は7～8馬身はあっただろうか。

そして直線。軽快に逃げ脚を伸ばすエクラールの背後、2番手集団から抜け出してきたのがステイゴールドだった。しかし2頭の間には、まだ大きな差がある。誰が見てもエクラールの逃げ切りは確実なものに見えた。

しかしステイゴールドはここから、武豊騎手いわく「羽が生えたみたいな」末脚で、驚異的な追い込みを見せる。内へささった態勢を立て直されると、外から猛然と襲い掛かるステイゴールド。絶望的に感じた差はあっという間に縮まり、ゴールする本当の寸前にエクラールをアタマ差捉えて、トップでゴールを駆け抜けたのだった。奇跡が現実となった瞬間だった。

香港ヴァーズ(GI)
THE HONG KONG VASE

豪脚炸裂、奇跡の大逆転！
ラストランでついにGIタイトルを奪取
ステイゴールド
STAY GOLD



逃げるエクラールを際どく捉えたところがゴールだった



レース後、引き揚げてくる武豊騎手の顔は笑顔が絶えなかった

香港ヴァーズ（GI） THE HONG KONG VASE

3歳上 芝2400㍍ 良(GOOD TO FIRM) 14頭 1着賞金8,000,000香港ﾄﾞﾙ

	馬名（中国表記）	調教国	性齢	騎手	着差	人気
1	ステイゴールド Stay Gold（黄金旅程）	日	牡7	武豊	2:27.8	2.0①
2	エクラール Ekraar（艾高強）	UAE	牡4	L.デットーリ	頭	11④
3	インディジェナス Indigenous（原居民）	香	騙8	D.ホワイト	6¼	17⑦
4	ファンデーションスピリット FoundationSpirit（基金精神）	仏	牡3	T.テュリエ	8	38⑩
5	ヘレンバイタリティ Helene Vitality（喜運精神）	香	騙5	B.マーカス	8	38⑨
6	ダリアプア Daliapour（大利多）	英	牡5	J.ムルタ	10¼	5.1②
7	ホワイトハート White Heart（三人楽隊）	米	騙6	G.スティーヴンス	10¼	13⑤
8	タピルド Tapildo（特別多）	星	牝4	E.ウィルキンソン	11½	65⑬
9	カイタノ Caitano（西単路）	独	牡7	O.ペリエ	15	26⑧
10	ジンダバド Zindabad（万歳）	英	牡5	K.ダーレイ	15½	10③
11	レインボーアンドゴールド Rainbow and Gold（神彩金剛）	香	騙4	G.モッセ	19¼	14⑥
12	サーベイジェネラル Survey General（開心名駒）	香	騙5	E.サンマルタン	24½	99⑭
13	オリエンタルエクスプレス Oriental Express（奔騰）	香	騙8	F.コーツィー	28½	57⑫
14	リティガド Litigado（李逵）	香	騙5	A.マーカス	31½	55⑪

単勝2.05倍 複勝1.4倍 2.95倍 2.95倍
馬複 9.55倍

※成績表の着差は、1着の馬からの着差を示しています。また単勝オッズに関して、香港ジョッキークラブからは勝ち馬を除き、10倍以下のものしか小数点以下の数字が発表されませんので、ご了承ください。

瞬間だった。

やや興奮した素振りを見せるステイゴールドと、満面の笑みをたたえた武豊騎手が引き揚げてくると、日本人ファンが一斉にスタンド前へ駆け寄り、偉業を成し遂げた人馬に大きな歓声を上げる。涙をこぼしながら叫び声を上げるファンもいる。口取りのあとには、関係者が武豊騎手を本馬場で胴上げするという微笑ましいシーンも見られた。

「（ゴドルフィンの）青い勝負服を見ると燃えるのかな？ これまでステイゴールドを応援してくれたファンのみなさん、おめでとうございました」

レース後、余裕の表情で報道陣を笑わせた武豊騎手。また池江泰郎調教師は、

「日本でGIを取れなかったのに、最後のレース、それも海外でGIを勝つなんて、本当にこの馬らしいですね。ドバイのときより状態ははるかによく、あとはレースの運だけだと思っていましたが、ユタカくんが最高の騎乗をしてくれた。勝てて本当によかった」

と、興奮冷めやらぬ表情で語った。

もうあとがない引退レースで見せた、奇跡的な差し切りでの国際GI制覇。ここまでドラマチックな幕切れはそうそうあるものではない。池江調教師ならずとも、つねにファンを沸かせ続けた愛すべき馬、ステイゴールドらしいと思わずにはいられなかった。

ステイゴールド
Stay Gold

1994年3月24日生 牡7歳 黒鹿毛
父サンデーサイレンス
母ゴールデンサッシュ（父ディクタス）
栗東・池江泰郎厩舎
馬主・有社台レースホース
生産者／白老ファーム（北海道白老町）
通算成績／50戦7勝
主な勝ち鞍／01香港ヴァーズ（GⅠ）
01ドバイシーマクラシック（UAE-GⅡ）
01日経新春杯（GⅡ）
00目黒記念（GⅡ）



エイシンプレストンは楽々と抜け出し、福永騎手はゴール前でガッツポーズをとった

香港マイル(GI)
THE HONG KONG MILE

目を見張る末脚を繰り出して、2着以下をぶっちぎった!
エイシンプレストン
EISHIN PRESTON

低評価に反発するかのような驚異の圧勝劇。

香港ヴァーズのあと、1レースをはさんで香港マイルは第7レースとして行われた。ここに出走する日本調教馬は2頭。先のマイルチャンピオンシップで1、2着を占めたゼンノエルシドとエイシンプレストン、いずれも外国産馬だ。

単勝オッズ1番人気はゼンノエルシドで2・6倍。9月の京成杯オータム日で記録した1分31秒5の持ち時計(JRAレコード)は日本以外からの参戦馬のそれを遠く引き離した速さで、高評価の最大の要因はここにあったと推測される。

対して、GI朝日杯3歳S(現・朝日杯フューチュリティS)の覇者で、マイルチャンピオンシップでも2着に入っているにも関わらず、エイシンプレストンの評価は意外なほど低く、単勝オッズは24・9倍で、6番人気に過ぎなかった。ゼンノエルシドと、地元期待のエレクトロニックユニコーン(単勝4・7倍、2番人気)の前評判の高さによって人気の盲点になった格好、とでも言えばいいのだろうか。

スタートは午後4時20分。先頭に立ったのは香港のチャーミングシティで、内枠から好スタートを切ったゼンノエルシドとドバイのチャイナヴィジットがそれを追い、ペースはやや速くなった。外枠に入ったエイシンプレストンもすんなりと流れに乗り、馬群の外から中団につけた。

淀みのない流れで4コーナーを回り、迎えた直線。2番手を進んでいたゼンノエルシドが突然失速してしまい、ペリエ騎手が入れるステッキにもまったく反応がなくなって、圏外へと去ってしまう。そして、それに代わるように外から桁違いの脚で伸びてきたのがエイシンプレストンだった。エンジンに火がつくと一気に先行集団を飲み込んで、最後の一追いで後続に3馬身¼もの差をつけてゴールへ飛び込んだ。鞍上の福永祐一騎手はゴール



好調に見えたゼンノエルシドだが、流れが向かなかったこともあって惨敗した



福永騎手はスタンドに詰め掛けた日本人ファンの声援に手を挙げて応えた

THE HONG KONG INTERNATIONAL RACES 2001
香港国際競走2001

エイシンプレストン
Eishin Preston

1997年4月9日生　牡4歳　鹿毛
父Green Dancer
母Warranty Applied(父Monteverdi)
栗東・北橋修二厩舎
馬主・平井豊光氏
生産者／Joseph.E.Gehl氏(米国)
通算成績／20戦8勝
主な勝ち鞍／01香港マイル(GⅠ)
99朝日杯3歳S(GⅠ)
01毎日王冠(GⅡ)
00ニュージーランドT4歳S(GⅡ)
01北九州記念(GⅢ)
00アーリントンC(GⅢ)

香港マイル(GI) THE HONG KONG MILE

3歳上　芝1600㍍　良(GOOD TO FIRM)　14頭　1着賞金8,000,000香港ﾄﾞﾙ

	馬名(中国表記)	調教国	性齢	騎手	着差	人気
1	エイシンプレストン Eishin Preston(栄進賽帥)	日	牡4	福永祐一	1:34.8	2④
2	エレクトロニックユニコーン Electronic Unicorn(電子麒麟)	香	騙5	R.フラッド	3¼	4.7②
3	チャイナヴィジット China Visit(中国遊)	UAE	牡4	L.デットーリ	4¼	13④
4	フォービドゥンアップル Forbidden Apple(禁果)	米	牡6	C.ナカタニ	4¾	5.4③
5	ショウグンロッジ Shogun Lodge(将軍府)	豪	騙5	S.ダイ	5	15⑤
6	レッドペッパー Red Pepper(紅辣椒)	香	騙4	G.モッセ	5¼	47⑧
7	チャーミングシティ Charming City(魅力之城)	香	騙5	B.マーカス	6	80⑫
8	ショウアハート Show a Heart(表心意)	豪	牡4	G.ボス	6	92⑬
9	プラウドウイングス Proudwings(大鵬展翔)	独	牝5	武豊	6¼	42⑦
10	スーパーモリー Super Molly(超級無敵)	香	騙4	D.オリヴァー	7	67⑪
11	タフスピード Tough Speed(勁速)	英	牡4	J.ムルタ	9½	49⑨
12	レッドサン Red Sun(紅太陽)	香	牡5	F.コーツィー	10	56⑩
13	マウントアブ Mount Abu(阿布駒)	英	牡4	J.フォーチュン	10¼	99⑭
14	ゼンノエルシド Zenno El Cid(禅宗勝者)	日	牡4	O.ペリエ	13½	2.6①

単勝24.85倍　複勝5.6倍　1.95倍　3.3倍
馬複44.5倍

へ入る前からスタンド方向へ顔を向けてガッツポーズをとる余裕さえ見せる、文字どおりの圧勝だった。

やや神経質な面のあるエイシンプレストンは、香港に入ってからイレ込んで体重が減り、レース前日も角馬場での調整のみにとどめられて、コースへは入らなかった。しかし当日は、発汗こそやや目立ったものの、過度のイレ込みはなく、その実力を遺憾なく発揮して素晴らしいパフォーマンスを見せつけた。海外のメディアのなかには、2001年の世界のマイル戦線で最も強い勝ち方をした馬であると報道したものもあったという。

「オーナーに〝リラックスして乗りなさい〟と言われていたんで、プレッシャーはありませんでした。5年前に香港国際カップに乗ったんですが(シーズグレイス、9着)、そのときの経験からエイシンプレストンにはシャティンのクッションのきいた馬場は合うと思っていたんです。スタートがあまりよくない馬で、ちょっとナーバスになっていたので、そのことは気にしていたんですが、まあまあのスタートが切れて、外枠からうまく流れに乗れました。4コーナーでは少し〝行きたがった〟のですが、そこで我慢させたのがよかったですね。ゼンノエルシドが人気になっていましたが、僕の馬も力の差はないから、勝てる可能性はあると思っていました」

海外の大舞台でも臆することなく堂々とした騎乗を見せた福永祐一騎手は、そう語って胸を張った。

振り返ってみれば、エイシンプレストンは旧4歳春の骨折によって長期の休養を余儀なくされた馬。そうしたアクシデントから立ち直って国際GIを制覇するまでに復調した馬自身の精神力に敬服するとともに、根気強くリハビリやトレーニングに力を注いだ関係者の努力にも頭が下がる。

また1頭、欧米への雄飛の期待を抱かせる馬が現れた。そんな夢を膨らませるに十分なレースだった。



四位騎手は作戦どおりのレースで勝利をものにして、満足そうな表情



表彰式ではアグネスデジタルの関係者に一際大きい拍手が送られた

THE HONG KONG INTERNATIONAL RACES 2001
香港国際競走2001

アグネスデジタル
Agnes Digital

1997年5月15日生　牡4歳　栗毛
父Crafty Prospector
母Chancey Squaw(父Chief's Crown)
栗東・白井寿昭厩舎
馬主・渡辺孝男氏
生産者／Catesby W.Clay & Peter J.Callahan氏
通算成績／22戦10勝
主な勝ち鞍／01香港カップ(GⅠ)
01天皇賞・秋(GⅠ)
01南部杯(GⅠ)
00マイルCS(GⅠ)
99全日本3歳優駿(GⅡ)
01日本テレビ盃(GⅢ)
00ユニコーンS(GⅢ)
00名古屋優駿(GⅢ)

香港カップ(GI) THE HONG KONG CUP
3歳上　芝2000㍍　良(GOOD TO FIRM)　14頭　1着賞金10,200,000香港ﾄﾞﾙ

	馬名(中国表記)	調教国	性齢	騎手	着差	人気
1	アグネスデジタル Agnes Digital(愛騏数碼)	日	牡4	四位洋文	2:02.8	3.9②
2	トブーグ Tobougg(多博)	UAE	牡3	L.デットーリ	頭	2.4①
3	テーラテール Terre a Terre(天時地利)	仏	牝4	C.スミヨン	½	35⑦
4	ホークアイ Hawkeye(好眼力)	英	牡3	G.スティーヴンス	1	17⑥
5	ジムアンドトニック Jim and Tonic(雞尾酒)	仏	騙7	T.テュリエ	2	7.2③
6	サドルアップ Saddle Up(日益成熟)	星	騙6	O.ペリエ	3	71⑪
7	ピークパワー Peak Power(冠覇)	香	騙5	R.フラッド	4¼	40⑧
8	ボチェリ Bocelli(博賽利)	星	騙5	G.クックスリー	4¾	99⑫
9	チョックアイス Choc Ice(冰淇淋)	仏	牝3	J.ムルタ	4¾	98⑫
10	モメンタム Momentum(原動力)	香	騙5	S.ダイ	5	51⑨
11	シルヴァノ Silvano(星運来)	独	牡5	A.スポリクス	8	9.7⑤
12	モナーズ Monards(多財多穀)	香	騙5	E.サンマルタン	8½	99⑭
13	ハウスマスター Housemaster(掌門)	香	騙5	F.コーツィー	10	70⑩
14	バッハ Bach(巴赫)	愛	牡4	M.キネーン	11½	8.1④

単勝3.95倍　複勝1.65倍　1.4倍　6.1倍
馬複4.95倍

気に先頭に立ったのだ。しかし、鞍上の四位騎手の手はまったく動いていない。

力強く末脚を伸ばすアグネスデジタル。しかし道中、脚をためていたトブーグが再び内から脚勢を盛り返し、外からはテーラテールが伸びてくる。息詰まる追い比べになる。

そこからがアグネスデジタルの非凡なところだった。トブーグと馬体を併せての叩き合いとなったが、絶対に先頭を譲るまいとばかりにしぶとく脚を伸ばし、ゴールでは僅かにアタマ差、競り勝ったのだ。

これで日本調教馬はGIを3連勝！　もはや見ていた私たちも、ただただあっけにとられるばかりだった。

日本調教馬が勝利を重ねるごとに表情が硬くなってきていた白井寿昭調教師は、レース後に喜びを爆発させた。

「いやあー、そりゃもうプレッシャーがかかったでぇ(笑)。でも、本当に勝ててよかった。世界のホースマンが見ている前で、世界の基準になる2000㍍のレースを勝ったんだから、これは価値があるでしょう。次の目標はドバイ(ワールドカップ)です」

好騎乗でアグネスデジタルを勝利に導いた四位洋文騎手は、

「最初のコーナーをスムーズに回ったところで、これはいけそうだと思ったよ。勝利を確信したのは、直線で先頭に立ったとき。内からデットーリが差し返してきたことも、外からも1頭来てたのもわかってたけど、負ける気はしなかった。思ったようなレースができて嬉しかったね」

と語って、愛馬の力を世界の舞台で証明できた喜びを噛み締めていた。

芝、ダートと馬場を問わず、距離もマイルから2000㍍までカバーするアグネスデジタルだけに、選択肢は幅広くある。今後はドバイワールドカップへ直行する予定で、秋にはダートのクラシックか、芝のマイルかは未定としながらも、ブリーダーズカップへの参戦も視野に入れているという。



トブーグが差し返してきたが、アグネスデジタルはしぶとく抑えきって勝利を収めた

香港カップ(GI)
THE HONG KONG CUP

意表を突く先行策から4角先頭。
しぶとい粘りでライバルを振り切った！

アグネスデジタル
AGNES DIGITAL

ドバイへの夢が膨らむ堂々たる勝利。

香港国際競走の掉尾を飾るのは、エミレーツ・ワールドシリーズ・レーシングチャンピオンシップの最終戦ともなっている香港カップ。日本から出走したのは、先の天皇賞・秋でテイエムオペラオーを大外から豪快に差し切って見せたアグネスデジタルである。

やはり特に格の高いGIだけに、世界から強豪が顔を揃えた。4月のクインエリザベスII世カップ(香港GI)、8月のアーリントンミリオン(米GI)を勝っているドイツのシルヴァノ。2000年のこのレースの覇者で、香港・シャティン競馬場でのレースを得意としているフランスのジムアンドトニック。10月のブリーダーズカップマイル(米GI)で3着に入った、アイルランドのバッハ。その他にも、前走でオペラ賞(仏GI)を勝っているフランスのテーラテール、旧3歳時にGIを2勝しているドバイのトブーグなどがいた。そうしたメンバーのなかで、アグネスデジタルはトブーグに次いで単勝オッズ3・9倍の2番人気に推されていた。

スタートは午後5時。外の12番枠からの発走となったアグネスデジタルはダッシュよく飛び出すと、意表を突いて先頭に立ち、日本人の観客を驚かせた。しかしこれは奇をてらったわけではなく、「スタートしてすぐ1コーナーに入るから、外に振られるのはイヤだった」(四位洋文騎手)ための対応策だったのである。1コーナーを回ったところで内外の差を利してトブーグが先頭に立ち、バッハなど3頭がそれに続き、アグネスデジタルはロスなくコーナリングすると、外の5番手に位置をとった。

デットーリ騎乗のトブーグは絶妙なペース配分でレースを引っ張り、流れはややスローになった。各馬がじっと抑えたままレースは進んだが、動きが出たのは3コーナーからだった。アグネスデジタルが手綱を抑えたままで2番手に上がり、直線へ向いたときには一